

くりな紋が描かれているのがわかる。

最後に家臣たちの持鎧についてみていく。一般的に、鎧は武士の身分を象徴する道具の一つで、外出時には必ず鎧持を従えたとされる。通常、鎧の穂は鞘に収められているが、そのかたちは家ごとに多種多様である。「行列図巻」に描かれている重臣たちの鞘をみても、それぞれに個性的である。鳥取藩政資料には、家臣の鎧を区別するため、家ごとに鎧の外装と鞘のかたちを図示した帳面が残されている。「紋所持鎧書上」という表題の資料がそれで、幕末の30俵以上の藩士たちの家紋と持鎧が網羅されている。この資料から、もっとも個性的なかたちの吉村牧右衛門の鎧鞘を比較してみると、(写真3a, 3b)のように、しっかりとその特徴を描写している。

その他の重臣たちの鞘も、いちいち図示はしないが、大嶋楨蔵以外は、「紋所持鎧書上」と一致する。大嶋が一致しない(写真4a, 4b)理由は、今のところ明らかにしえないが、大嶋家がある時点において鞘のかたちを改めたものと解釈しておきたい。

①：写真3a (『紋所持鎧書上』部分)

②：写真3b (『行列図巻』部分)

③：写真4a (『紋所持鎧書上』部分)

④：写真4b (『行列図巻』部分)



以上のように、「行列図巻」の道具類や衣服を二次資料との間で比較検討したところ、ほぼ一致するという結果が得られた。したがって「行列図巻」は、実際の行列の容姿をかなり忠実に描いているとみてよいだろう。

おわりに

「因州東照宮祭礼御予参行列図巻」は、これまで文

字資料だけでは知り得なかった、行列の順序、道具、衣服、人員などが細かく描かれており、欠損は惜しまれるが、資料的な価値は高い。

「行列図巻」の制作者や描いた目的は、野田家資料にも手がかりとなる資料がないため、明らかにはしえないが、行列を正確に記録するには、観察力に長け、それなりの知識や技量があって、情報を得やすい立場にある制作者像が浮かぶ。伝来した野田家の人物が関与したとすれば、嘉永5年当時の野田家の当主野田文次郎(1801-81)は「御八人」を勤めていた。「御八人」は行列に供奉しているのだから、文次郎は参加者の側である。しかし、文次郎が加わっている行列を、野田家の関係者が記念として描いた可能性はある。憶測をたくましくすれば、それなりの技量を備えた人物として、当時学館の教授御雇であった文次郎の嫡子佐右衛門(1825-73)を、制作者と考えることもできよう。

ところで、この「御予参」行列について、江戸後期の鳥取藩士岡嶋正義は、その著作『烏府志』のなかで「恒に太守家の御通行を、諸人途中に在て拝見せることは此日と江戸御上下の時のみ也。依之奉拝が為、御領内は勿論、他邦の人まで輻湊す。」⁷⁾と紹介している。岡嶋によれば、藩主が通行する姿を領民が目にする機会は、東照宮の祭礼日と参勤交代のときのみで、それを目当てに藩内外から多くの見物人が集まったという。さらに、嘉永5年の「御予参」行列は、池田家の血筋を引かない藩主として、初めて御国入りを果たした池田慶徳にとって、存在感を示す大きな行事の一つでもあった。そうしたことが、制作者にこの行列を描かせた一因であったのかもしれない。

制作者については、推測の域を出ないが、本稿で述べてきたことや紹介した写真図版が、いささかでも研究に役立つ基礎資料となれば幸いである。

■註記

- 1) たとえば、『鳥取藩史』には鳥取藩三代藩主池田吉泰が宝永二年(一七〇五)の参勤交代の前に行った首途の式の際の供揃が掲載されている。
- 2) 鳥取藩の行列を描いたものとして、当館の寄託資料である六曲一双の「参勤交代図屏風」がある。しかし、この資料は行列を正確に描くことを目的としたものではない。屏風は、行列が東海道と思しき宿場を右から左へ行進する左隻と、左から右へ街道の山道を進む右隻からなる。行列そのものは、遠近法によって人物の大小の差が大きいうえに、金雲や樹木の間に見え隠れして、全体が見通せないように描かれている。さらに制作年代や制作者も不明で、藩主の駕籠や道具に鳥取藩の家紋が描かれていることから、鳥取

藩の行列を描いたものと判断されているが、行列の構成や鎗鞘のかたちなどから判断して、考証を経たものとは思われぬ。後年になって室内を飾る観賞用に製作されたと思われるべきだろう。

- 3) 一卷目の端裏書と二巻目の端裏書に個人名の墨書がある。兩名は、寄贈者の親族にあたる。墨書はどちらも直筆とみられ、筆跡から、兩名の子ども時代（大正末から昭和初期）

に記されたと考えられる。

- 4) 「因府録」（佐藤長健編纂），『鳥取県史』6 近世資料所収
- 5) 当館蔵 鳥取藩政資料「御国日記」（嘉永5年9月15日条）
- 6) 当館蔵 『泰平萬代大成武鑑』嘉永4年改正 江戸出雲寺萬次郎蔵板
- 7) 「鳥府志」（岡嶋正義著），『鳥取県史』6 近世資料所収

「東照宮祭礼御予参行列図巻」（一卷目）



御打物

御中小姓

御供目附
御八人奉行
御馬奉行
御弓奉行
御鉄炮奉行
御徒土頭
表小姓
御近習

押老人

御道具
部屋頭一人上下着ス

御笠持



御草履

御坊主二人

御茶弁当

台持

手代り一人

金御紋
跡御箱

箕箱

足輕
小使四人

部屋頭上下着ス

御駕

御六尺